

「小型衛星の打ち上げ・利用に関する研究会」第2回会合を開催 ～ 小型衛星の利活用、周波数調整の先行事例を報告 ～



研究会(第2回会合)の様子

総務省北陸総合通信局(局長 濱島 秀夫)は平成29年10月2日(月)、「小型衛星の打ち上げ・利用に関する研究会(座長:八木谷 聡 金沢大学教授)」第2回会合を開催しました。

はじめに、福井工業大学の中城智之教授から同大学の「ふくいPHOENIXプロジェクト」について、(1)小型衛星を活用した地球観測を行い地域防災に活用すること、(2)小型衛星とドローンを活用した環境計測農林水産業、宇宙を題材にした地域のイメージアップによる観光文化の発展に利用すること、(3)地域の資源を生かした小型衛星に関する産業を確立して都市と農山村の間にヒト・モノ・カネ・情報の対流を生み出す社会を実現して、移住や企業移転を目的とした、産業育成など地域創生につなげたいこと、(4)平成30年度末に1号機、平成32年度には2号機の打ち上げを計画していることなど説明がありました。



宇宙技術開発(株)
福島マネージャ

宇宙技術開発(株)の福島聡マネージャからは、東京大学における衛星利用や周波数調整事例の聞き取り調査結果について、(1)東京大学は「ほどよし1号」を始め小型衛星の打ち上げの実績があること、(2)小型衛星の目的は主に宇宙研究、宇宙探査などであること、(3)UHF帯はコストは安くなるが低データレートの通信しかできないこと、(4)S帯、X帯は比較的高データレートの通信はできるが高コストで衛星の姿勢を安定させる必要があることの説明がありました。



福井工業大学 中城教授

総務省基幹・衛星移動通信課の郷藤新之助係長からは、小型衛星の無線局免許手続きの必要書類と免許までの流れについて説明があり、特に、周波数は国際調整が必要であることから、早期に総務省との連絡体制を整えていただきたいとの説明がありました。

最後に、宇宙技術開発(株)の福島聡マネージャから、自社で取り扱った事例を基に、小型衛星で使用する周波数には優先順位があり、国の重要無線通信周波数を回避する必要があることの説明がありました。

会合は来年3月までに2回開催し、次回会合は11月を予定していません。



総務省基幹・衛星移動通信課
郷藤係長

お問い合わせ先
無線通信部企画調整課
076-233-4470